

中国共产党

第十回

全国代表大会

文献集

中国共产党  
第十回  
全国代表大会  
文献集

外文出版社  
北京



中国共産党第十回全国代表大会は1973年8月24日から28日まで北京で盛大にひらかれた。わが党の偉大な指導者毛沢東同志が今回の大会を主宰した



中国共産党第十回全国代表大会の主席台上の毛沢東同志、周恩来同志、王洪文同志

# 中国共产党第十次全国代表大会



中国共产党第十次全国代表大会は、団結の大会、勝利の大会、生気はつらつとした大会であった。写真は大会の主席台



大会主席台上の毛沢東同志



大会主席台上の（左から）周恩来、康生、李德生三同志



大会主席台上の（右から）王洪文、葉劍英兩同志





大会主席台上の（左から）劉伯承、朱徳、陳錫聯三同志



大会主席台上の（右から）張春橋、江青両同志



大会主席台上の（左から）姚文元、紀登奎、華国鋒三同志。



大会主席台上の（右から）許世友、李先念、董必武三同志



大会主席台上の（右から）汪東興、吳德兩同志



中国共産党第十回全国代表大会が正式に開幕したその日、われわれの偉大な社会主義祖国の津々浦々からきた大会代表は、マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの大きな肖像がかかげられているホールを通過して、荘厳な会場に入った



中国共産党中央委員会を代表して中国共産党第十  
回全国代表大会で政治報告をおこなう周恩来同志



中国共産党中央委員会を代表して中国共産党第十回全国代表大会で党規約改正についての報告をおこなう王洪文同志





毛主席が主席台に姿をあらわしたとき、満場にあらしのような歓声がわきあがり、代表たちは大きな感激を胸に、しばし鳴りやまぬ熱烈な拍手をおくり、「偉大な指導者毛主席万歳！ 万々歳！」と高らかに叫んだ

周 恩 来

中国共産党第十回  
全国代表大会における報告

(1973年8月24日に報告、8月28日に採択)

## 中国共産党第十回全国代表大会における報告

(一九七三年八月二十四日に報告、八月二十八日に採択)

周恩来

同志のみなさん！

中国共産党第十回全国代表大会は、林彪反党集団が粉碎され、党の第九回全国代表大会の路線が偉大な勝利をおさめ、国内外の情勢がひじょうにすばらしいという状況のもとで開かれた。

わたしは中央委員会を代表して、第十回全国代表大会に報告をおこなう。おもな内容は、九全大会の路線について、林彪反党集団粉碎の勝利について、情勢と任務についてである。

### 九全大会の路線について

党の九全大会は、毛主席がみずからおこし指導するプロレタリア文化大革命が偉大な勝利をおさめた時点で開かれたものである。

九全大会は、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命にかんするマルクス主義・レーニン主

義・毛沢東思想の学説にもとづいて、歴史の経験とプロレタリア文化大革命の新しい経験を総括し、劉少奇の修正主義路線を批判し、社会主義の全歴史的段階における党の基本路線と政策を再確認した。同志のみなさんも記憶しているように、一九六九年四月一日九全大会が開幕したとき、毛主席は「団結して、いっそう大きな勝利をかちとろう」という偉大な呼びかけを発した。同年四月二十八日第九期中央委員会第一回総会で、毛主席は「プロレタリア階級独裁を強固にするという目標のために団結しよう」、「プロレタリア階級の指導のもとに、全国の広範な人民大衆を団結させて、勝利をかちとることを保証しなければならない」とかさねてはつきりと指摘した。毛主席はまた「若干年すぎたら、おそらくまた革命をおこなわなければならないだろう」と予言した。毛主席の講話と大会で採択された中央委員会の政治報告は、わが党のためにマルクス・レーニン主義の路線を規定した。

周知のように、九全大会の政治報告は、毛主席みずからの主宰のもとに起草されたものである。九全大会の前に、林彪は陳伯達とぐるになって、一つの政治報告を起草した。かれらはプロレタリア階級独裁のもとでの継続革命に反対し、九全大会後のおもな任務は生産を發展させることであるとみなした。これは劉少奇、陳伯達が八全大会の決議におしこんだ、国内の主要な矛盾

はプロレタリア階級とブルジョア階級との矛盾ではなくて、「先進的な社会主義制度と立ちおくれた社会的生産力との間の矛盾」であるという修正主義謬論の、新しい情勢のもとでの焼きなおしである。林彪、陳伯達のこの政治報告は当然のことながら中央によって否定された。毛主席の主宰のもとに起草された政治報告にたいし、林彪はひそかに陳伯達を支持して公然と反対させたが、それがうち破られたあと、やむをえず中央の政治路線をしぶしぶ受け入れ、大会で中央の政治報告を読み上げたのである。ところが、九全大会の開催中と大会後、林彪は毛主席、党中央がかれにたいして教育し、阻止し、救いの手をさしのべるのを無視して、ひきつづき陰謀破壊活動をおこなった。かれは、一九七〇年八月第九期中央委員会第二回総会で反革命クーデターをおこなって未遂に終わり、一九七一年三月反革命武装クーデター計画「五七一工程」紀要をつくり、九月八日反革命武装クーデターをおこなって、偉大な指導者毛主席を謀殺し別に中央をつくらうとするところまでつづ走ったのである。陰謀が失敗に終わったあと、林彪は九月十三日ひそかに飛行機に乗ってソ修に身を投じ、党を裏切り国にそむき、モンゴルのウンデルハンで墜死した。

林彪反党集団を粉砕したことは、わが党が九全大会後におさめたもつとも大きな勝利であり、国内外の敵にたいする手痛い打撃である。九・一三事件後、全党、全軍、全国の何億もの各民族人民は真剣に討論し、ブルジョア階級の野心家、陰謀家、二面派、裏切り者、売国奴林彪とあく

までかれに追隨する徒党に、このうえなく大きなプロレタリア階級の義憤を示し、偉大な指導者毛主席と毛主席をはじめとする党中央をだんこ擁護することを表明した。また、全国的範圍で、林彪批判・整風運動をくりひろげ、マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想を真剣に学習し、林彪のたぐいのペテン師にたいする革命的大批判をくりひろげて、思想面、政治面、組織面からかれらの反革命的犯罪行為を清算し、真のマルクス主義とにせのマルクス主義を見分ける能力を高めた。事実が立証しているように、林彪反党集団はひとにぎりにすぎず、全党、全軍、全国人民のなかで極度に孤立しており、大局にはなんの影響もないのである。林彪反党集団は、中国人民の革命の奔流がすさまじい勢いで前進するのをはばむことができなかつたし、またできるはずもなく、逆に全党、全軍、全国人民を、「團結して、いっそう大きな勝利をかちとる」ようにいちだんと発奮させたのである。

林彪批判・整風運動に推進されて、九全大会の路線は人びとの心のなかにいっそう深く根をおろした。党の九全大会の路線とプロレタリア階級の諸政策は、いっそう着実に実行された。上部構造各領域の闘争・批判・改革は、新たな成果をおさめた。林彪によって破壊された、事実にもとづいて真理を求め、大衆路線を実行するという作風、謙虚で慎しみ深く、刻苦奮闘するという榮えある伝統は発揚された。プロレタリア文化大革命のなかで新しい功績を立てた中国人民解放

軍は、戦争への備えを強化し、人民の革命と建設に参加する面で、新しい貢献をした。プロレタリア階級に指導され、労農同盟を基礎とする各民族人民の革命的大團結は、いっそう確固としたものになった。われわれの党は、ふるいものを吐きだし、新しいものをとり入れることによって、いまではすでに二千八百万の党員からなる、いっそう生氣はつらつとしたプロレタリア階級の前衛となっている。

林彪批判・整風運動に推進されて、わが国人民は、林彪反党集団の破壊活動にうち勝ち、きびしい自然災害をのりこえて、社会主義建設の新しい勝利をかちとった。わが国の工業、農業、交通運輸業、財政・貿易の状況は良好である。われわれは対外債務もなければ国内債務もなく、物価は安定し、市場は榮えている。文化・教育、医療・衛生、科学・技術事業にも多くの新しい成果がみられる。

国際面では、わが党とわが国政府は、九全大会の定めた対外政策をだんこ貫徹した。われわれと社会主義兄弟諸国との、各国の真のマルクス・レーニン主義の政党、組織との間の革命的友情、友好諸国との協力関係は、いちだんとふかまった。わが国は平和共存五原則を基礎として、ますます多くの国と外交関係を樹立した。国連におけるわが国の合法的な地位は回復された。中国を孤立させる政策は破たんをつけ、中米関係はいくらか改善された。中日両国は国交の正常化

を実現した。わが国人民と各国人民との友好交流はいっそう広くなり、そして互いに助けあい、互いに支援しあつて、世界情勢をひきつづき各国人民にとって有利な方向に発展するよう推進している。

九全大会いらいの革命の実践、主として林彪反党集団との闘争の実践は、九全大会の政治路線と組織路線がともに正しいものであり、毛主席をはじめとする党中央の指導が正しいものであることを立証している。

### 林彪反党集団粉砕の勝利について

林彪反党集団粉砕の闘争の経過、林彪反党集団の犯罪行為については、全党、全軍、全国人民はすでに知っている。したがって、ここではくわしくのべる必要がない。

マルクス・レーニン主義によれば、党内闘争は社会の階級闘争の党内における反映である。劉少奇裏切り者集団が壊滅すると、林彪反党集団がとび出してきて、ひきつづきプロレタリア階級と対決したことは、国内と国際のはげしい階級闘争の深刻な現われにほかならない。

早くも一九六七年一月十三日、プロレタリア文化大革命が高潮に達していたとき、ソ修裏切り者集団の頭目ブレジネフはゴリーキー州のある大衆集会で、わが国のプロレタリア文化大革命に

狂気のように反対し、かれらが劉少奇裏切り者集団の側に立っていることを公然と言明し、劉少奇裏切り者集団の壊滅は、「中国のすべての真の共産主義者にとっては大きな悲劇である。そのため、われわれはかれらに深い同情をよせている」などといった。ブレジネフはまた、ひきつづき中国共産党指導部をくつがえす方針をおおびらに宣言し、「国際主義の道にもどらせるようにつとめ」（一九六七年一月十四日付『プラウダ』）なければならぬなどといった。一九六七年三月、ソ修のもうひとりの頭目はモスクワの大衆集会で、「中国の真の利益を代表する健全な勢力は遅かれ早かれ自己の決定的な発言をし」、「マルクス・レーニン主義の思想を自己の偉大な国家で勝利させるであろう」（一九六七年三月四日付と三月十日付の『プラウダ』）などいっそう露骨にいった。かれらのいう「健全な勢力」とは、社会帝国主義とあらゆる搾取階級の利益を代表する腐り果てた勢力のことであり、かれらのいう「決定的な発言」とは、党と国家の最高権力をのつとめることであり、かれらのいう「思想を勝利させる」とは、にせもののマルクス・レーニン主義、ほんものの修正主義が中国を支配することであり、かれらのいう「国際主義の道」とは、中国をソ修社会帝国主義の植民地にする道である。ブレジネフ裏切り者集団はたまりかねて反動派の共通の願いをいいあらわしたのであり、林彪反党集団の極右の本質をいいあらわしたのである。

林彪とあくまでかれに追隨するひとにぎりの徒党は、「語録を手から離さず、口をひらけば万

歳を唱え、面と向かつてはお世辞をふりまき、背後では毒手を下す」反革命陰謀集団である。かれらのおしすすめた反革命の修正主義路線の本質、かれらがおこした反革命武装クーデターの罪悪的なねらいは、党と国家の最高権力をのっとり、九全大会の路線に完全にそむき、社会主義の全歴史的段階における党の基本路線と政策を根底から変え、マルクス・レーニン主義の中国共産党を修正主義のファッショ党に変え、プロレタリア階級独裁をくつがえし、資本主義を復活させることにある。国内では、かれらは、わが党、わが軍、わが国人民が毛主席の指導のもとでみずからうち倒した地主・ブルジョア階級をふたたびもり立てて、封建・買弁のファッショ独裁を實行しようとした。国際的には、かれらはソ修社会帝国主義に投降しようとし、帝国主義、修正主義、各国反動派と連合して、中国に反対し、共産主義に反対し、革命に反対した。

林彪というこのブルジョア階級の野心家、陰謀家、二面派はわが党内で、十数年ではなくて数十年も陰謀をめぐらしてきたのであるが、かれには発展の過程と暴露の過程があったし、われわれにもかれにたいする認識の過程があった。マルクス、エンゲルスは『共産党宣言』で、「これまであらゆる運動は、少数者の運動か、あるいは少数者の利益のための運動であった。プロレタリア運動は、大多数者の利益のための大多数者の自主的な運動である」とのべている。毛主席

は、「中国と世界の大多数の人びとの利益をはかる」ことをプロレタリア革命事業の継承者のおもな条件のひとつとしており、われわれの党規約にもこれが書きこまれている。公のために党を結成するのか、それとも私のために党を結成するのか。これはプロレタリア政党とブルジョア政党の分水嶺であり、真の共産黨員とにせの共産黨員を区別する試金石である。林彪は、中国の新民主主義革命の初期に共産党にはいった。かれはその頃から中国革命の前途に悲観し失望していた。古田会議\*の直後、毛主席は林彪あてに「小さな火花も広野を焼きつくす」という長い手紙を書き、かれにたいし嚴肅で辛抱づよい教育をおこなった。事實は、かれのブルジョア的観念論の世界観がぜんぜん改造されていないことを立証している。かれは、革命の重大な時点で、いつも右翼的なあやまりを犯し、また、いつも二面派の口を弄して、偽りの姿で党を欺き、人民を欺いた。だが、中国革命がひきつづき発展するにつれて、とりわけ中国革命の性質が社会主義革命に転化し、しかもしだいに深化して、ブルジョア階級とすべての搾取階級を徹底的にくつがえし、プロレタリア階級独裁をもってブルジョア階級独裁にとつてかわらせ、社会主義をもって資本主義にうち勝とうとするときに、林彪のような、少数者の利益だけをはかる資本主義の道をお

\* 古田会議は一九二九年十二月にひらかれた——訳注。

ゆむ実権派は、地位が高くなるにつれて野心も大きくなり、自己の力を過大評価し、人民の力を過小評価して、これ以上ひそんでいることができず、とびだしてきて、プロレタリア階級と対決するにいたった。かれが国内外の階級敵の必要に応じ、ソ修の指揮棒に従って、「自己の決定的な発言をし」ようとしたときに、かれは徹底的に自己を暴露し、全面的に破たんしたのである。

エンゲルスは適切にもこうのべている。「プロレタリア階級の発展はどんなところでも内部闘争をとまなうものだ」。「マルクスやわたしのようにその生涯をつうじてほかのなにものにもたいするよりも、えせ社会主義者にたいしてはげしく闘争してきたものは（なぜなら、われわれはブルジョア階級を階級として把握した。ブルジョアと個人的にあらそったことはほとんど一度もなかった）、たとえやむをえない闘争がおこっても、ひどくなやむことはない。」（「マルクス・エンゲルス全集」一八八二年十月二十八日「エンゲルスからベーベルへの書簡」）

同志のみなさん！

半世紀このかた、わが党は十回にわたる重大な路線闘争をへてきた。林彪反党集団の壊滅は、党内の二つの路線の闘争が終結したことを意味しない。国内外の敵はみな、トリデは内側から奪い取るのがいちばん容易であることを知っている。党内にもぐりこんだ資本主義の道をあゆむ実権派の手でプロレタリア階級独裁をくつがえすほうが、地主や資本家がみずから出馬するよりも

ずっと都合がよいのであり、とりわけ地主や資本家が世間で鼻持ちならないほど評判がわるくなっている状況のもとでは、なおさらそうである。将来、階級が消滅しても、上部構造と経済的土台とのあいだの矛盾、生産関係と生産力とのあいだの矛盾はやはり存在する。これらの矛盾を反映する、進んだものとおくれたもの、正しいものとあやまったものの二つの路線の闘争もやはり存在する。まして社会主義社会は、相当長い歴史的段階である。この歴史的段階においては終始、階級、階級矛盾、階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存在し、帝国主義と社会帝国主義による転覆と侵略の脅威が存在する。これらの矛盾を反映した党内の二つの路線の闘争は長期にわたって存在し、これからさきも十回、二十回、三十回と起ころであらうし、林彪のような人物があらわれ、王明、劉少奇、彭德懷、高崗のような人物があらわれるであらう。これは、人びとの意志によって左右されるものではない。したがって、われわれ全党の同志は、こんごの長期にわたる闘争のなかで、十分な心構えをもたなければならず、階級敵がいかに手口をかえようとも、情勢に応じて有利な方向にみちびき、プロレタリア階級の勝利をかちとるようにしなければならない。

毛主席は、「思想面、政治面での路線が正しいかどうかすべてを決定する」と、われわれに教えている。路線が正しくなければ、たとえ中央の指導権、地方の指導権、軍隊の指導権をにぎ



つたとしても失敗する。路線が正しければ、兵士を一人ももっていないなくても兵士をもつようになり、国家権力をにぎっていないなくても国家権力をにぎるようになる。わが党の歴史的経験も、マルクス以来の国際共産主義運動の歴史的経験もこの通りである。林彪は「いっさいを指揮し、いっさいを動員し」ようとした。結果は、いっさいを指揮することができず、いっさいを動員することができなかつた。問題は路線によってきまる。これは、動かすことのできない真理である。

毛主席は、わが党のために社会主義の全歴史的段階における基本路線と政策を規定し、また具体的な諸活動のために具体的な路線と政策をきめている。われわれは活動のなかで、党の具体的な諸活動の路線と政策を重視するだけでなく、特に党の基本路線と政策を重視しなければならぬ。これは、わが党がいっそう大きな勝利をかちとるための基本的な保証である。

毛主席は、党内の十回にわたる路線闘争の経験、とりわけ林彪反党集団粉砕の闘争の経験を総括して、全党に、「マルクス主義をやるのであって、修正主義をやってはならない、団結するのであって、分裂してはならない、公明正大であって、陰謀術策をめぐらしてはならない」と呼びかけ、われわれのために正しい路線とあやまった路線を区別する基準を示し、一人びとりの共産党員がかならず守らなければならない三つの基本原則をさし示した。われわれすべての同志は、この三つの原則を銘記し、この三つの原則を堅持して、党内の二つの路線の闘争を積極的に正し

くすすめなければならない。

毛主席はつねに、一つの傾向がもう一つの傾向をおおいかくしていることに注意をばらうよう、われわれに教えている。陳独秀の「すべてのものと連合し、闘争を否定する」右翼日和見主義に反対したとき、「すべてのものと闘争し、連合を否定する」王明の「左」翼日和見主義がおおいかくされていた。王明の「左」翼的傾向を是正したとき、また王明の右翼的傾向がおおいかくされていた。劉少奇の修正主義に反対したときには、林彪の修正主義がおおいかくされていた。一つの傾向がもう一つの傾向をおおいかくして、ある潮流があらわれると多数の人がそれについて走り、ごくわずかの人がそれに抗するというようなことは、歴史上なん回もおこっている。こんにちの国際国内の闘争においても、過去にあったような傾向、つまりブルジョア階級と連合すれば、欠くことのできない闘争を忘れ、ブルジョア階級と決裂すれば、一定の条件のもとでおお合できることを忘れるといった傾向は、依然としてあらわれる可能性がある。われわれは、できるだけ時をうつつさずにそれを発見し、是正する必要がある。そして、一つのあやまった傾向が潮のごとくおし寄せてきたときには、孤立することを恐れずに、敢然と潮流にさからい、覚悟をきめて敢然とそれに抗するようにしなければならない。毛主席は、「潮流にさからうことは、マルクス・レーニン主義の一つの原則である」とのべている。毛主席こそ、党内の

十回にわたる路線闘争のなかで、敢然と潮流にさからい、敢然と正しい路線を堅持してきた代表であり、教師である。われわれすべての同志は、毛主席によく学び、この原則を堅持すべきである。

偉大な、光榮ある、正しい中国共産党は、毛主席に代表される正しい路線にみちびかれて、党内と党外の、国内と国外の、武装したまたは武装していない、おおっぴらなまたはかくれた階級敵と長期にわたって対決してきた。わが党は分裂させられなかつたし、壊滅させられなかつた。これとは逆に、毛主席のマルクス・レーニン主義路線はいっそう発展し、わが党はいっそう強大になった。歴史の経験は、「われわれのこの党には希望がある」という確信をわれわれにもたせた。毛主席が一九六六年に、「中国にもし反共の右派のクーデターが起こるならば、かれらは安寧ではありえず、おそらく短命であるにちがいないとわたしは断言する。なぜなら、九〇パーセント以上の人民の利益を代表するすべての革命者が容認するはずがないからである」と予言したが、まさにその通りである。われわれ全党が歴史の経験を銘記し、毛主席の正しい路線を堅持しさえすれば、ブルジョア階級のあらゆる復活の陰謀はかならず失敗する。重大な路線闘争がこれから何回起こったとしても、歴史の法則を変えることはできず、中国革命と世界革命は、最後には勝利する。

### 情勢と任務について

毛主席はつねに、われわれは依然として帝国主義とプロレタリア革命の時代におかれている、とわれわれに教えている。レーニンはマルクス主義の基本原理にもとづいて、帝国主義の科学的分析をおこない、「帝国主義は資本主義の最高段階である」との見解に達した。レーニンは、帝国主義とは独占資本主義であり、寄生的な、または腐敗しつつある資本主義であり、死滅しつつある資本主義である、と指摘している。レーニンは、帝国主義は資本主義のすべての矛盾をこのうえなく先鋭化させたと指摘している。したがって、レーニンは、「帝国主義はプロレタリア階級の社会革命の前夜である」とみなし、そして帝国主義時代のプロレタリア革命の理論と戦術をうち出した。スターリンは、「レーニン主義は帝国主義とプロレタリア革命の時代におけるマルクス主義である」とのべているが、これはまったく正しい。レーニンの死後、世界情勢には大きな変化がおきた。しかし、時代は変わっていない。レーニン主義の基本原則は時代おくれになつておらず、こんにちも依然としてわれわれの思想をみちびく理論的基礎である。

当面の国際情勢の特徴は、天下が大いに乱れていることである。「山雨来タラント欲シテ風樓ニ滿ツ」。これこそ、レーニンが分析した世界の各種の基本的矛盾のこんにちにおける現われで

ある。緩和は一時的、表面的な現象であり、大動乱はなおもつづくであろう。このような大動乱は、人民にとってわるいことではなくて、よいことである。それは、敵を乱し、敵を分化させ、人民を目ざめさせ、人民をきたえて、国際情勢を人民にとって有利で、帝国主義、現代修正主義、各国反动派にとって不利な方向にいつそう発展するようおしすすめるものである。

第三世界の覚醒と強大化は、現代の国際関係における大きな出来事である。これら諸国は、超大国の覇権主義と強権政治に反対する闘争のなかで団結をつよめており、国際関係のなかでますます大きな役割をはたしている。ベトナム、ラオス、カンボジア三カ国人民の抗米救国戦争の偉大な勝利は、全世界人民の反帝・反植民地主義の革命闘争を力よく鼓舞している。朝鮮人民の祖国の自主的平和統一をめざす闘争には、新しい局面があらわれている。パレスチナ人民とアラブ諸国人民のイスラエル・シオニズムの侵略に反対する闘争、アフリカ諸国人民の植民地主義と人種差別に反対する闘争、ラテンアメリカ諸国人民の二百海里領海と経済区域を堅持する闘争は、いずれもひきつづき前進している。アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民の、民族の独立をかちとり擁護し、国家の主権と民族の資源を守る闘争は、いつそう深く、広く発展している。第三世界とヨーロッパ、北アメリカ、オセアニア人民の正義の闘争は、互いに支持しあい、はげましあっている。国家は独立を求め、民族は解放を求め、人民は革命を求めること、これは

すでにさからうことのできない歴史の流れとなっている。

レーニンは、「帝国主義の重要な特徴は、いくつかの大国が覇権を獲得しようと努力していることである」とのべている。こんにちでは、主として米ソ両核超大国が覇権を争っている。かれらは毎日軍縮を唱えているが、実際には毎日軍備を拡張している。その目的は世界の覇権を争うことにある。かれらは争奪もすれば、結託もする。結託はさらに大きな争奪をおこなうためである。争奪は絶対的、長期的なものであり、結託は相対的、一時的なものである。ことしをヨーロッパの年と宣言したこと、全欧安保会議を開くことは、かれらの争奪の戦略的重点がヨーロッパにあることを示している。西側はつねにソ修を東方に向かわせ、この禍を中国におしやろうとし、西側に戦争がなければそれでよいとしている。中国は脂がのった肉であって、誰でも食べたがっている。しかし、この肉はひじょうにかたくて、長年らい、誰も歯がたたなかつた。まして「超大物スパイ」林彪が倒れたいま、なおさら手が下しにくくなっている。現在、ソ修がやっているのは、東を攻めると見せかけて西をうつというもので、ヨーロッパにおける争奪に拍車をかけ、地中海、インド洋および手をのばせるすべてのところへの拡張に力をそいでいるのである。米ソの覇権争奪は、世界が安寧でありえない根源である。これは、かれらがいかなる見せかけの現象をつくり出しても、おおいかくすことのできないものである。それはすでにますます

多くの人民と国ぐにによって見やぶられ、第三世界のつよい抵抗にあい、日本と西欧諸国の不満をひきおこしている。米ソ両覇者は、内外ともに困難にぶつかり、ますます苦しい状態におちいつており、「無可奈何花ノ落チ去ルヲ」という窮地におかれている。今年六月の米ソ会談およびそのこの情勢は、この点をいつそうはつきり立証している。

「人民、ただ人民のみが世界の歴史を創造する原動力である。」米ソ両覇者は野望にもえているが、それをとげられるかどうかは別問題である。中国を呑みこもうとしても、齒がたたないし、ヨーロッパや日本にも齒がたたない。まして広大な第三世界はなおさらのことである。アメリカ帝国主義は、朝鮮侵略戦争に失敗したときから下り坂をたどり始めた。かれら自身も日ましに衰退していることを公然と認め、ベトナムから撤退せざるを得なくなった。ソ連修正主義支配集団は、フルシチョフからブレジネフにいたるこの二十年のあいだに、社会主義国を社会帝国主義国に変質させてしまった。かれらは国内では、資本主義を復活させ、ファッシヨ独裁をおこなひ、各民族人民を奴隷のようにあつかひ、政治、経済、民族の矛盾をますます激化させている。また、対外的には、チェコスロバキアを侵略・占領し、中国との国境地帯に軍隊を集結し、モンゴルに出兵し、ロン・ノル売国集団を支持し、ポーランドの労働者の造反を弾圧し、エジプトに干渉して専門家を追い出され、パキスタンを分解させ、アジア、アフリカの多くの国ぐにで転覆

活動をおこなった。これら一連の事実、新しいツァーのみにくい姿と、その「口先での社会主義、実際の帝国主義」という反動の本質を徹底的にさらけ出している。かれらが悪事やみにくいことをすればするほど、ソ連人民と世界人民によって歴史博物館に送りこまれる日が、ますます早く訪れてくるのである。

さいきん、ブレジネフ裏切り者集団は、中ソ関係問題について、中国は世界情勢を緩和させることに反対しているのだ、中国は中ソ関係を改善しようとしなだのとくだらないことをさかんにいっている。このようなことをいうのは、ソ連人民と各国人民にきかせるためであり、そうすることによって、中国人民にたいするソ連人民と各国人民の友好的感情に水をさし、新しいツァーの正体をおおいかくそうとしている。それにもまして大きなねらいは、独占資本家にきかせることにある。かれらは反中国、反共で功績をたてたことを理由に、もっと多くの賞金をせしめようとしているのである。これはヒトラーの使い古した手口であり、ブレジネフの演技はより拙劣だというだけのことである。そんなに世界情勢を緩和させたいのなら、なぜ、チェコスロバキアあるいはモンゴルから軍隊を撤退させるとか、日本の北方四島を返還するといったことを、一つや二つやってみせて、誠意を示さないのか。中国は他国の領土を侵略・占領していない。中国が長城以北を全部ソ修に明けわたさなければ、われわれが世界情勢の緩和に賛成せず、中ソ関係

の改善を願っていないことにでもなるのだろうか。中国人民はだまされもしなければ、たじろぎもしない。中ソ間の原則的な論争は、平和共存五原則を基礎とする両国関係の正常化を妨げるべきではないし、中ソ境界問題はいかなる脅威もうけない情況のもとで、交渉を通じて平和的に解決されるべきである。「相手が侵してこなければこちらも侵さない、相手が侵してくればこちらももかならず侵す」、これがわれわれの一貫した原則である。われわれは言ったことはかならず実行する。

ここで指摘しておかなければならないのは、ソ修と米帝の結託、妥協と、革命的國家の帝國主義国にたいする必要な妥協とを区別しなければならぬということである。レーニンも適切にもいつている。「妥協にもいろいろある。一つ一つの妥協について、あるいは、妥協の一つ一つの変種について、その状況と具体的な条件を分析するすべを知らなければならぬ。ギャングからうつける害悪をすくなくし、ギャングを逮捕し、銃殺するのをたやすくするために、ギャングに金と武器をあたえた人と、盗品の分配にくわるために、ギャングに金と武器をあたえる人とを区別するすべを、学ばなければならぬ。」（『共産主義内の「左翼主義」小児病』）レーニンがドイツ帝國主義とプレスト・リトフスク条約をむすんだことは前者に属し、レーニンをうらぎったブルシチョフとブレジネフのやったことは後者に属する。

レーニンがたびたび指摘しているように、帝國主義とは侵略であり、戦争である。毛主席は一九七〇年五月二十日の声明のなかで、「新しい世界大戦の危険は依然として存在しており、各国民はかならず備えがなければならない。だが、当面の世界のおもな傾向は革命である」と指摘している。日ましに目ざめる各国人民が、方向をはっきりと見きわめ、警戒心を高め、団結を強化し、闘争を堅持しさえすれば、戦争をくいとめる可能性はある。もし帝國主義が強引に戦争をおこすならば、かならず全世界の範囲でより大きな革命をひきおこし、その滅亡を早めるであろう。

当面の国内外のすばらしい情勢のもとで、われわれ中国の事柄をりっぱにやりとげることがきわめて重要である。したがって、國際的には、わが党は、プロレタリア國際主義を堅持し、党の一貫した政策を堅持し、全世界のプロレタリア階級、被抑圧人民、被抑圧民族との団結をつよめ、帝國主義の侵略、転覆、干渉、支配、侮辱をうけているすべての国との団結をつよめ、もっとも広範な統一戦線を結成して、帝國主義と新旧植民地主義、とりわけ米ソ両超大国の覇権主義に反対しなければならぬ。われわれは全世界のすべての真のマルクス・レーニン主義の政党、組織と団結して、現代修正主義に反対する闘争を最後までおしすすめなければならない。国内では、われわれは社会主義の全歴史的段階における党の基本路線と政策にしたがい、プロレタリア

階級独裁のもとでの継続革命を堅持し、団結できるすべての力と団結し、わが国を強大な社会主義国に築きあげることにつとめて、人類にたいし比較的大きな貢献をしなければならぬ。

われわれは「戦争にそなえ、自然災害にそなえ、人民のために」、「深く地下道を掘り、いたるところで食糧を貯え、覇権を求めない」という毛主席の教えをあくまでまもり、帝国主義がひきおこす可能性のある侵略戦争、とくにソ修社会帝国主義のわが国にたいする不意の襲撃に高度の警戒心を保ち、あらゆる用意を整えておかなければならない。英雄的な人民解放軍と広範な民兵は侵入してくる敵をいつでも殲滅する用意を整えておかなければならない。

台湾省は祖国の神聖な領土であり、台湾人民はわれわれの血を分けた同胞である。われわれは台湾同胞にかぎりない配慮をよせている。台湾同胞は祖国を愛し、祖国に思いをよせている。台湾同胞は祖国のふところにもどってはじめて、明るい前途がある。台湾はかならず解放しなければならぬ。われわれの偉大な祖国はかならず統一しなければならぬ。これは台湾同胞をふくむ全国各民族人民の共通の願いであり、神聖な義務である。この目標を実現するためにわれわれはともに努力しよう！

同志のみなさん！

われわれの社会主義革命と社会主義建設は大きな成果をおさめたとはいえ、つねに客観情勢の

要求に追いつかないということを、われわれはみてとるべきである。われわれはなお、ひじょうに重い社会主義革命の任務をこなしている。プロレタリア文化大革命の闘争・批判・改革の任務は、各戦線においてひきつづき深くほりさげて遂行する必要がある。われわれの仕事における欠点、あやまりや一部の不正な傾向は、今後の努力によって克服していかなければならない。われわれ全党は当面の有利な時機をしっかりとつかんで、プロレタリア文化大革命の成果を固め、発展させ、各方面の活動をりっぱにおこなわなければならない。

まず、林彪批判・整風をひきつづきりっぱにおこなわなければならない。林彪反党集団といふこの反面教師を十分に利用して、全党、全軍、全国各民族人民に階級闘争と路線闘争の教育をおこない、修正主義を批判し、ブルジョア世界観を批判して、広範な大衆がわが党の十回にわたる路線闘争のなから歴史の経験を学びとり、わが国の社会主義革命の時期における階級闘争と二つの路線の闘争の特徴と法則についての認識をふかめ、真のマルクス主義とにせのマルクス主義を見分ける能力をたかめるようにさせなければならない。

全党はマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの著作と毛主席の著作をまじめに学習し、弁証法的唯物論と史的唯物論を堅持し、観念論と形而上学に反対し、世界観を改造しなければならぬ。とりわけ高級幹部は、なおさら「まじめに本を読んで学習し、マルクス主義に通

じ」なければならない。マルクス主義の基本的理論を把握し、新旧修正主義とさまざまな日和見主義にたいするマルクス主義の闘争の歴史を理解し、毛主席がどのようにしてマルクス・レーニン主義の普遍的真理を革命の具体的実践と結びつけ、マルクス・レーニン主義をうけつぎ、守り、発展させてきたかを理解するようにつとめなければならない。われわれは、長期の努力をへて、「われわれの広範な幹部と人民がマルクス主義の基本的理論で武装される」ことを希望する。

文化の諸領域をふくむ上部構造の階級闘争を重視し、経済的土台に適應しないすべての上部構造を改革しなければならない。性質の異なる二種類の矛盾を正しく処理しなければならない。毛主席のプロレタリア階級の諸政策をひきつづき真剣に実行しなければならない。ひきつづき、文学・芸術革命、教育・医療衛生革命をりっぱにおこない、農山村におもむく知識青年にかんする活動をりっぱになしとげ、五・七幹部学校をりっぱに運営し、社会主義の新しい事物を支持しなければならない。

わが国は経済面ではまた貧しい国であり、発展途上の国である。われわれは、大いに意気こみ、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線を貫徹し、革命に力をいれて、生産をうながさなければならない。「農業を基礎とし、工業を導き手とする」方針と二本足で歩く一連の政策をひきつづき実行し、独立自主をつらぬき、自

力更生にたより、刻苦奮闘し、勤儉をむねとして国を建設しなければならない。マルクスは、「最大の生産力は革命的階級そのものである」と指摘している。大衆に依拠することは、二十数年前の社会主義建設におけるわれわれの基本的経験のひとつである。工業が大慶に学び、農業が大寨に学ぶには、プロレタリア階級の政治による統帥を堅持し、大衆運動を大いにくりひろげ、広範な大衆の意気こみ、知恵、創意性を十分に発揮させなければならない。これを基礎にして、計画性を強め、協力関係を強め、合理的な規則・制度を健全にし、中央と地方の二つの積極性をよりよく発揮させなければならない。党組織は経済政策の問題を重視し、大衆の生活に関心をよせ、調査研究をりっぱにおこない、国民経済発展のための国家計画を着実に達成、超過達成して、わが国の社会主義経済をさらに大きく発展させなければならない。

党の一元化した指導をさらに強化すべきである。工業、農業、商業、文化・教育、軍隊、政府、党という七つの分野で、党がすべてを指導する。各級の党委員会は、毛主席の『党委員会制度の健全化について』、『党委員会の活動方法』などの著作を学んで、経験を総括し、思想、組織、制度の面から党の一元化した指導をいっそう強化しなければならない。同時に、革命委員会と各大衆組織の役割を發揮させるべきである。基層組織にたいする指導を強化し、その指導権をマルクス主義者と労働者、貧農・下層中農その他の勤労大衆の手に確実ににぎらせ、プロレタ

リア階級独裁強化の任務を各基層組織で着実に遂行するようにさせなければならぬ。各級の党委員会は民主集中制を健全なものにし、指導の水準を高めなければならない。日常の具体的な小さな事柄に没頭し、大きな事柄に注意をはらわない党委員会が少なくないが、これはひじょうに危険なことである、と強く指摘しておかなければならない。これを改めなければ、かならず修正主義の道に踏みこむであろう。全党の同志、とりわけ指導的同志がこうした傾向に警戒し、こうした作風を真剣にあらためよう希望する。

プロレタリア文化大革命のなかで、広範な大衆によって生みだされた老年、中年、青年の三結合という経験は、毛主席の提起した五つの基準にてらして、なん百万なん千万というプロレタリア革命事業の継承者を育てるために、有利な条件をつくった。各級の党組織は、この百年の大計をつねに議事日程にくみいれるべきである。毛主席は、「プロレタリア階級の革命の継承者は、つねにはげしい風波のなかで成長するものである」とのべている。階級闘争と路線闘争の鍛練をへなければならず、正反二つの面の経験の教育をへなければならない。したがって、真の共産党員は、高い地位にあげられても、低い地位にさげられても、何度あがったり、さがったりしても、その試練に耐えられなければならない。新旧幹部をとわず、すべて大衆と密接にむすびつき、謙虚で、慎重で、おごりをいましめ、あせりをいましめ、党と人民が必要とするいかなる持

場にもおもむき、いかなる情況のもとでも毛主席の革命路線と政策を確固として実行しなければならぬ。

同志のみなさん！ 党の十全大会は、われわれの党の発展史上に深遠な影響をおよぼすであろう。近いうちに、われわれは第四期全国人民代表大会をひらくことになっている。全国人民と各国の革命的人民は、わが党とわが国に大きな期待をかけている。毛主席の指導のもとに、全党はかならず、毛主席のプロレタリア革命路線を堅持し、われわれの活動をりっぱになしとげ、全国人民と世界人民の期待にすることができるとわれわれは信じている。

前途は明るい、道はまがりくねっていない。全党は団結し、全国各民族人民は団結して、決意をかため、犠牲をおそれず、万難を排して、勝利をたたかいたろう！

偉大な、光栄ある、正しい中国共産党万歳！

マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想万歳！

毛主席万歳！ 万々歳！



王 洪 文

## 党規約改正についての報告

(中国共産党第十回全国代表大会で、  
1973年8月24日に報告、8月28日に採択)

## 党規約改正についての報告

(中国共産党第十回全国代表大会で、一九七三年  
八月二十四日に報告、八月二十八日に採択)

王 洪 文

同志のみなさん！

わたしはここに党中央の委託を受けて、わが党の規約の改正問題についてかいつまんで説明する。

毛主席、党中央の党規約改正にかんする指示にもとづいて、今年の五月に召集された中央工作会议は、九全大会の党規約の改正問題を討議した。会議のあと、各省・市・自治区の党委員会、各大軍区の党委員会と中央直属単位の党組織は、いずれも党規約改正小組を設立し、広く党内外の大衆から意見を求め、正式に中央に四十一部の改正案草稿を届けてきた。これと同時に、各地の党内外の大衆からも多くの改正意見が直接おくられてきた。いま大会の討議にかけている改正案は、毛主席の党規約改正にかんする具体的な提案にもとづき、各地の改正案草稿と意見を真剣

に検討したうえで起草したものである。

党規約改正の討議のなかで、全党の同志は一致してつぎのように認めた。党の第九回全国代表大会に、全党、全軍、全国人民は、毛主席がみずから主宰して定めた九全大会の路線のまちびきのもとに、プロレタリア文化大革命の闘争・批判・改革を深くほりさげてすすめ、林彪反党集団を粉碎し、国内と国際の闘争の各方面でいずれも偉大な勝利をおさめた。四年あまりの実践は、九全大会の政治路線と組織路線がともに正しいことを十分立証している。九全大会で採択された党規約は、わが党の一貫した根本原則を堅持し、プロレタリア文化大革命の新しい経験を反映しており、全党、全軍、全国人民の政治生活のなかで積極的な役割をはたしている。改正案の総綱の部分は、九全大会の党規約の、わが党の性質、指導思想、基本綱領、基本路線などについての規定を保留し、構成と内容にいくらかの調整をくわえた。条文の部分はあまりかえていない。総字数はやや減っている。九全大会党規約の総綱のなかの林彪にかんするくだりは、こんど全部削除した。これは全党、全軍、全国人民の一致した要求であり、林彪が党を裏切り、国に叛き、みずから党と絶縁し、みずから人民と絶縁した必然の結果でもある。

九全大会の党規約にくらべて改正案は、主として二つの路線の闘争の経験の内容を充実させているが、これも各地から送られてきた改正案草稿にみられる共通の特徴である。われわれの党は毛主席の指導のもとに、すでに十回にわたる大きな路線闘争の勝利をかちとり、右と「左」の日和見主義路線にうちかつ豊富な経験を積んできた。これらの経験は全党にとってきわめて貴重なものである。毛主席は、「ある政党が革命を勝利にみちびくには、どうしても自己の政治路線の正しさと組織の強固さに依存しなければならない」とのべている。われわれ全党の同志はみな路線問題に十分注意をはらい、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命を堅持し、党建設を強化し、社会主義の歴史的段階における党の基本路線の実現を保証しなければならない。

この面で改正案にはどういった内容がかき足されているか。

第一、プロレタリア文化大革命について。プロレタリア文化大革命は、社会主義の条件のもとで、プロレタリア階級がブルジョア階級とすべての搾取階級に反対する政治大革命であり、深くほりさげた党整頓の運動でもある。プロレタリア文化大革命のなかで、毛主席は全党、全軍、全国人民を指導して、劉少奇と林彪をそれぞれ頭目とする二つのブルジョア階級司令部を粉碎したが、これは国際、国内のすべての反動勢力に対する手痛い打撃である。こんどのプロレタリア文化大革命は、プロレタリア階級独裁をうち固め、資本主義の復活を防ぎ、社会主義を建設するうえで、まったく必要なものであり、きわめて時宜にかなったものである。改正案はこんどの革命の偉大な勝利と重大な意義を十分確認し、また、「このような革命は、今後何回もおこなわなけ

ればならない」と明記した。国内において、社会の二つの階級、二つの道の闘争が必然的に党内に反映されるばかりでなく、国際的にも、われわれにたいして侵略と転覆をおこなおうとする帝國主義と社会帝國主義が必然的にわれわれの党内に代理人をさがし求めるものであるということをも、歴史の経験はわれわれに教えている。一九六六年、まだプロレタリア文化大革命がもりあがったばかりの時、毛主席は、「天下大いに乱れて、天下大いに治むるにいたる。七、八年たつと、もう一度くりかえす。妖怪変化が自らとびだしてくる。かれらはその階級の本性から、とびださないではいられないのである」と指摘した。階級闘争の現実はずでに、毛主席が明らかにしたこの客観的法則を立証したし、こんごもひきつづき立証するであろう。われわれはかならず警戒心をたかめ、このような闘争の長期性と複雑性を認識しなければならない。思想、政治、経済の領域での社会主義革命を深くほりさげておこない、社会主義の経済的土台に適應しないすべての上層構造を改革し、またプロレタリア文化大革命のような政治大革命をなすお回もおこなわなければならない。こうしてはじめて、プロレタリア階級独裁をたえず強固にし、社会主義事業の新たな勝利をたかいたることができるのである。

第二、「マルクス主義をやるのであって、修正主義をやってはならない、団結するのであって、分裂してはならない、公明正大であって、陰謀術策をめぐらしてはならない」を堅持するこ

と。毛主席がうちだした「三つのやるべきこと、三つのやってはならないこと」の原則で、いちばん基本的なのはマルクス主義をやるのであって、修正主義をやってはならないということである。マルクス主義をやり、誠心誠意中国と世界の大多数の人びとの利益をはかるには、かならず団結しなければならないし、公明正大でなければならない。修正主義をやり、もっぱら少数の搾取階級分子のためにつくすものは、どうしても分裂をはかり、陰謀術策をめぐらすようになる。

修正主義は一種の国際的なブルジョア思潮である。修正主義分子は、ブルジョア階級と帝國主義、修正主義、各国反動派がもぐり込ませるか、味方にひっぱり込むという手口をつかってわれわれの党内に配置した代理人である。劉少奇、林彪のたぐいの野心家、陰謀家、二面派、あくまでも悔い改めない資本主義の道を歩む実権派は、それぞれ異なった動き方をするが、その本質は同じであり、いずれも修正主義をやる頭目であり、思想、政治から生活にいたるまで、すべて徹底的にブルジョア化し、くさりきつている。毛主席は、「修正主義が権力をにぎることは、つまりブルジョア階級が権力をにぎることである」とのべている。これはまったくそのとおりである。修正案は各地の提案にもとづいて、「三つのやるべきこと、三つのやってはならないこと」を総綱にかき入れた。党員が実行しなければならないことの第一項と党の基層組織の任務の第一項にはまた、北京市党規約改正座談会での労働者、農民、兵士の同志の意見と一部の省・市の提

案をとり入れて、「修正主義を批判する」という内容をかき足した。修正主義は依然として当面のおもな危険である。マルクス主義を学習し、修正主義を批判することは、われわれが党の思想建設を強化するうえで長期にわたる任務である。

第三、敢然と潮流にさからう革命的精神をもたなければならないこと。毛主席は、潮流にさからうことはマルクス・レーニン主義の一つの原則であると指摘している。多くの同志は党規約改正の討議のさい、党の歴史、自分の体験と結びつけて、これを党内の二つの路線の闘争におけるきわめて重要な問題であるとみなした。われわれの党には、民主主義革命の前期に、何度かあやまった路線の支配が現われたことがあり、民主主義革命の後期と社会主義革命の時期、毛主席によって代表される正しい路線が主導的地位を占める情況のもとでも、ある種のあやまった路線、ある種のあやまった観点が、一時多くの人によって正しいものとして支持されたという教訓がある。毛主席によって代表される正しい路線は、そうしたあやまったものとだんこ闘争し、かつ勝利をかちとってきた。路線にかかわること、大局にかかわることであれば、真の共産黨員は公につくす心をいだいて、免職をおそれず、党からの除名をおそれず、入獄をおそれず、殺害をおそれず、離婚をおそれず、敢然と潮流にさからわなければならない。

もちろん、あやまった潮流にたいしては、それに敢然とさからうかどうかという問題があるだけではなく、それを見分ける能力があるかどうかという問題もある。社会主義の歴史的時期における階級闘争と路線闘争はきわめて複雑なものである。一つの傾向がもう一つの傾向によっておおいにかくされている時には、多くの同志はとかく注意をおこたる。そのうえ陰謀術策をろうする者が故意に見せかけをつくるので、われわれが見分けるのをいっそう困難にしている。討議をへて、多くの同志はつぎのようにみなした。弁証法的唯物論の観点によれば、あらゆる客観的事物はすべて認識可能である。「われわれは眼力がたりないので、望遠鏡や顕微鏡の力を借りなければならぬ。マルクス主義の方法が政治上、軍事上での望遠鏡であり、顕微鏡である。」マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの著作と毛主席の著作を刻苦してしっかりと学び、闘争の実践に積極的に参加し、世界観の改造に努力しさえすれば、真のマルクス主義とにせのマルクス主義を見分ける能力をたえず高め、正しい路線とあやまった路線、正しい観点和あやまった観点のけじめをつけることができるようになる。

闘争をくりひろげるにあたっては、毛主席の二つの路線の闘争についての理論と実践を学んで、確固とした原則性をもつばかりでなく、正しい政策を実行し、性質の異なった二種類の矛盾をはっきり区別し、大多数を結集することに注意をほらい、党の規律をまもらなければならない。

第四、大衆闘争のなかで、なん百万なん千万というプロレタリア革命事業の継承者を育成すること。毛主席は、「われわれの党と国家が変色しないよう保証するためには、われわれは正しい路線と政策をもつ必要があるだけでなく、なん百万なん千万というプロレタリア革命事業の継承者を育成し養成する必要がある」とのべている。ここで育成するといっているのは、一人や二人のことではなく、なん百万なん千万のことである。このような任務は全党が重視してはじめて完遂できるのである。党規約改正についての討議のなかで、多くの古い同志はみな、毛主席がわが党を指導しておこしたプロレタリア革命事業の跡を継がせるため、継承者を育成する仕事をいっそう立派になしとげなければならないという強い願望を示した。多くの若い同志も、長期にわたる革命戦争と革命闘争によって鍛えられてきた古い幹部には、ゆたかな経験があり、かれらの長所を謙虚に学び、自分をきびしく律し、革命事業をりっぱに受け継ぐように努めなければならないと心から表明した。新しい幹部も古い幹部も互いに学びあい、長所をとり入れて短所をおぎないとおうとのべている。みんなの意見にもとづいて、改正案では総綱の部分に、継承者育成の内容をかき足し、条文の部分に、各級指導機関は老年、中年、青年の三結合をおこなうという原則をかき足した。われわれは、毛主席のプロレタリア革命事業の継承者についての五つの条件にもとづいて、重点的に労働者、貧農・下層中農のなかから優秀な人びとを各級の指導的地位に抜

てきし、婦人と少数民族の幹部の養成にも力を入れなければならない。

第五、党の一元化した指導をつよめ、党の伝統的作風を発揚すること。プロレタリア政党はプロレタリア階級組織の最高形態であり、党がすべてを指導しなければならない。これはマルクス主義の重要な原則である。改正案は、党の一元化した指導を強めることについての各単位の提案をとり入れ、条文の部分で、国家機関、人民解放軍およびそれぞれの革命的大衆組織は、「すべて党の一元化した指導をうけなければならない」と定めている。党の一元化した指導は、組織的にはつぎの二つの面に具現されなければならない。一、各同級組織の相互関係では工業、農業、商業、文化・教育、軍隊、政府、党という七つの分野で、党がすべてを指導するのであって、並列ではなく、ましてその逆ではない。二、上級と下級の関係では、下級が上級にしたがい、全党が中央にしたがうことである。これはわが党の従来からのきまりであって、こんども堅持していかなければならない。党の一元化した指導を強めるには、いくつかの分野での「合同会議」をもつて党委員会の指導にとつてかわらせてはならず、同時にまた革命委員会と各分野、各級組織の役割を十分發揮させなければならない。党委員会は民主集中制を実行し、集団指導を強めなければならない。津々浦々から来た同志たちと力をあわせるのであって、縄張り主義をやってはならない。みんなに意見を發表させるのであって、一人で決めてはならない。党の一元化した指導で

もつとも根本的なのは、正しい思想路線と政治路線の指導である。各級党委員会はみな、毛主席の革命路線を基礎にして、認識を統一し、政策を統一し、計画を統一し、指揮を統一し、行動を統一するようにしなければならない。

改正案では、理論と実践との結合、大衆との密接な結びつき、批判と自己批判という三大作風を総綱のなかにかきいれた。毛主席が提唱してきたわが党のこのすぐれた伝統は、古くからの共産党員にはよく知られているものであるが、それでも新しい歴史的条件のもとでどのようにそれを発揚していくかという問題がある。まして多くの新しく入党した同志には、なおさらそれを学習し、受け継ぎ、発揚するという問題がある。毛主席は、つねに党がきびしい闘争の時期におかれていたころの事例をあげて、われわれに、広はん大衆と苦楽をともにし、運命をともにするよう教えている。われわれはブルジョア思想の侵食と糖衣弾による襲撃を警戒し、謙虚でつつしみ深く、刻苦奮闘し、特殊化にだんこ反対し、「裏口取引」のようなあらゆる不正な傾向を真剣に是正しなければならない。

ここで強調したのは、大衆の批判と監督をうける問題である。われわれの国家はプロレタリア階級独裁の社会主義国である。労働者階級、貧農・下層中農および広はん勤労大衆が国家の主人公である。かれらには、わが党と国家の各級の幹部にたいして革命的監督をおこなう権利が

ある。プロレタリア文化大革命をへて、この観念が全党で強められた。しかし、いまでも、少数の幹部、とりわけ一部の指導幹部には、党内外の大衆の意見が気にさわわり、はては批判をおさえつけ、仕返しをするものさえおり、ごく一部にはかなりひどい例もある。人民内部の問題にたいして、「説得することができなければおさえつけ、おさえつけてもきかなければ捕える」というあやまったやり方をとるのは、党の紀律の絶対に許さないことである。改正案では、条文の部分に「批判をおさえつけたり、仕返しをしたりすることは絶対にゆるされない」という一句を書きくわえた。われわれは、この問題を二つの路線の闘争という高い見地から認識し、党の紀律に違反するこのような現象と断固たたかわなければならぬ。大衆を信頼し、大衆に依拠し、つねに「四大」（大いに見解をのべ、大胆に意見を發表し、大字報をはり、大弁論をおこなう）の武器を運用して、「社会主義革命と社会主義建設を有利にし、わりに困難を克服しやすくし、わりにはやいテンポでわが国の近代工業と近代農業を建設し、党と国家をわりに強固なものにし、わりに荒波をのりきれものにするため、集中もあれば民主もあり、規律もあれば自由もあり、意志の統一もあれば、個人の気持がのびのびし、生きいきとして活発でもある」という政治的局面をつくり出す」ように努めるべきである。

第六、プロレタリア国際主義を堅持することは、わが党の一貫した原則である。今回の改正案

では、さらに「大国シヨビーニズムに反対する」ことを書き入れた。われわれはあくまでも全世界のプロレタリア階級と革命的人民の側にたち、帝国主義、現代修正主義、各国反動派に反対するものであり、当面においては、とりわけ米ソ両超大国の覇権主義に反対しなければならない。新しい世界大戦の危険は依然として存在しており、われわれは侵略戦争に抵抗するあらゆる準備をせひともとのえ、帝国主義と社会帝国主義の不意の襲撃を防がなければならない。

毛主席は、「中国人は国際的なつきあいの面で、大国主義を断固として、徹底的に、きれいさっぱりと、ぜんぶ一掃しなければならない」とのべている。わが国は、人口が多く、土地がひろく、資源がゆたかである。われわれはかならずわが国を強大でゆたかな国にしなければならないし、また完全にそうすることができる。しかし、どのような情況のもとでも、われわれは「覇権を求めない」という原則を堅持し、超大国にはならない。全党の同志はみな、毛主席の教えをしつかり身につけ、百年たってもおごりたかぶってはならず、二十一世紀以後も思いあがってはならない。同時に国内でも、「大国シヨビーニズム」のさまざまなあらわれに反対し、全党、全軍、全国各民族人民の革命的団結をいつそう固め、社会主義革命と社会主義建設をはやめ、われわれのつくすべき国際主義の義務をはたすよう、努力しなければならない。

同志のみなさん、われわれの党は、偉大な、光栄ある、正しい党である。われわれは、全党が

十全大会で定められる政治路線と採択される新しい党規約にしたがって活動していけば、かならずわが党をいつそう確固とし、いつそう生氣はつらつとした党にきずきあげることができると思じている。われわれは毛主席をはじめとする党中央の指導のもとに団結して、いつそう大きな勝利をかちとろう！



# 中国共産党規約

(中国共産党第十回全国代表  
大会で1973年8月28日に採択)

## 中国共産党規約

(中国共産党第十回全国代表大会で一九七三年八月二十八日に採択)

### 第一章 総 綱

中国共産党は、プロレタリア階級の政党であり、プロレタリア階級の前衛である。

中国共産党は、マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想を自己の思想をみちびく理論的基礎とする。

中国共産党の基本綱領は、ブルジョア階級とすべての搾取階級を徹底的にくつがえし、プロレタリア階級独裁をもってブルジョア階級独裁にとつてかわらせ、社会主義をもって資本主義にうち勝つことである。党の最終目的は、共産主義を実現することにある。

中国共産党は、中国人民を指導し、五十余年にわたる艱難にみちた闘争をへて、新民主主義革命の徹底的な勝利をかちとり、社会主義革命と社会主義建設の偉大な勝利をかちとり、プロレタリア文化大革命の偉大な勝利をかちとつた。

社会主義社会は、相当長い歴史的段階である。この歴史的段階においては終始、階級、階級矛盾、階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存在し、帝国主義と社会帝国主義による転覆と侵略の脅威が存在する。これらの矛盾は、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命の理論と実践によつてのみ解決することができる。

わが国のプロレタリア文化大革命は、ほかでもなく、社会主義の条件のもとで、プロレタリア階級がブルジョア階級とすべての搾取階級に反対し、プロレタリア階級独裁をうちかため、資本主義復活を防ぐための政治大革命である。このような革命は、今後何回もおこなわなければならない。

党は労働者階級に依拠し、労働同盟を強固にし、全国各民族人民を指導して、ひきつづき階級闘争、生産闘争、科学実験の三大革命運動をくりひろげ、独立自主をつらぬき、自力更生にたよる、刻苦奮闘し、勤儉をむねとして国を建設し、大いに意気こみ、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設し、戦争にそなえ、自然災害にそなえ、人民のためにつくさなければならない。

中国共産党は、プロレタリア国際主義を堅持し、大国ショービニズムに反対し、断固として、全世界の真のマルクス・レーニン主義の政党、組織と団結し、全世界のプロレタリア階級、被抑

圧人民、被抑圧民族と団結して、米ソ両超大国の覇権主義に反対するため、帝国主義、現代修正主義、各国反動派を打倒するため、人が人を搾取する制度を地球上から一掃して全人類の解放を勝ちとるため、ともに奮闘するものである。

中国共産党は、右と「左」の日和見主義路線に反対する闘争のなかで、強固になり発展してきた。全党の同志は、敢然と潮流にさからう革命的精神をもち、マルクス主義をやるのであつて修正主義をやつてはならない、団結するのであつて分裂してはならない、公明正大であつて陰謀術策をめぐらしてはならないという原則を堅持し、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾を正しく区別し処理することに習熟し、理論と実践との結合、大衆との密接な結びつき、批判と自己批判の作風を發揚し、なん百万なん千万というプロレタリア革命事業の継承者を育成して、党の事業が永遠にマルクス主義の路線にそつて前進するよう保証しなければならない。

前途は明るい、道はまがりくねっている。共産主義のため生涯奮闘することを誓う中国共産党の党員は、決意をかため、犠牲をおそれず、万難を排して、勝利をたたかいとらなければならない。

## 第二章 党 員

第一条 満十八歳に達した中国の労働者、貧農、下層中農、革命軍人およびその他の革命者

で、党の規約をみとめ、党の一つの組織に参加してそのなかで積極的に活動し、党の決議を実行し、党の規律をまもり、党費をおさめる者はみな、中国共産党の党員になることができる。

**第二条** 入党を申請する者は、個別的に入党の手続をとり、党員二名の推薦をうけ、入党志願書に記入し、支部が審査し、広く党内外の大衆の意見をきいたうえで、支部大会で可決し、一級うえの党委員会の承認をえなければならぬ。

**第三条** 中国共産党の党員は、つぎのことを実行しなければならぬ。

- (一) マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想を真剣に学習し、修正主義を批判すること。
- (二) 中国と世界の大多数の人びとの利益をはかること。
- (三) 大多数の人びとと団結できること。その中には、自分に反対したことがあり、その反対があやまりであつたが、あやまりを真剣に改める人もふくまれる。しかし、個人的野心家、陰謀家、二面派にはとくに警戒し、このような悪人が党と国家の各級指導部をのつとるのを防ぎ、党と国家の指導権が永遠にマルクス主義革命家の手に握られるよう保証しなければならぬ。

(四) 事あるごとに大衆と相談すること。

(五) 批判と自己批判を勇敢におこなうこと。

**第四条** 党員が党の規律に違反したばあい、党の各級組織は、その権限内で、具体的な情況に

応じて、それぞれ警告、嚴重警告、党内職務の罷免、党籍を保留したうえでの観察、除名の処分をあたえる。

党員にたいする、党籍を保留したうえでの観察は、長くても二年をこえてはならない。党籍を保留したうえでの観察期間中は、表決権、選挙権、被選挙権がない。

革命の意志が衰退し、たびたび教育をしてもなお立ちなおらない党員にたいしては、離党を勧告することができる。

党員が離党を要求したばあい、支部大会で除籍を決定するとともに、一級うえの党委員会に報告して記録に留める。

確実な証拠のある裏切り者、特務、あくまでも悔い改めない資本主義の道を歩む実権派、墮落変質分子、階級異分子は、党から一掃すべきであり、再入党はゆるさない。

### 第三章 党の組織原則

**第五条** 党の組織原則は民主集中制である。

党の各級指導機関は、プロレタリア革命事業の継承者の条件と老年、中年、青年の三結合という原則にもとづいて、民主的協議、選挙によって生まれる。

全党は統一の規律にしたがうべきである。つまり、個人は組織にしたがい、少数は多数にしたがい、下級は上級にしたがい、全党は中央にしたがわなければならない。

党の各級指導機関は、定期的に代表大会あるいは党員大会に活動を報告し、つねに党内外の大衆の意見をきき、監督をうけなければならない。党員は、党の各級の組織と指導者にたいし批判と提案をおこなう権利をもつ。党員は党組織の決議と指示にたいして、異議があれば、その留保をゆるされ、また級を越えて中央と中央主席にいたるまで報告する権利をもつ。批判をおさえつたり、仕返しをしたりすることは絶対にゆるされない。集中もあれば民主もあり、規律もあれば自由もあり、意志の統一もあれば、個人の気持がのびのびし、生きいきとして活発でもある、という政治的局面をつくり出さなければならない。

**第六条** 党の最高指導機関は、全国代表大会とそれによって選出される中央委員会である。地方、軍隊および各部門の党の指導機関は、同級の党代表大会あるいは党員大会とそれによって選出される党委員会である。党の各級代表大会は各級党委員会によって召集される。地方、軍隊および各部門の党代表大会の召集と党委員会の人選は、すべて上級の組織の承認をへなければならない。

党の各級委員会は、大衆との密接な結びつき、精鋭・簡素化という原則にもとづいて、事務機構をもうけ、あるいは自己の代表機関を派遣する。

**第七条** 国家機関、人民解放軍および民兵、労働組合、貧農・下層中農協会、婦人連合会、共產主義青年団、紅衛兵、紅小兵その他の革命的大衆組織は、すべて党の一元化した指導をうけなければならない。

国家機関と人民団体には、党委員会あるいは党グループをもうけることができる。

#### 第四章 党の中央組織

**第八条** 党の全国代表大会は、五年ごとに一回ひらかれる。特殊な事情のもとでは、それを繰り上げもしくは繰り延べてひらくことができる。

**第九条** 党の中央委員会総会は、中央政治局、中央政治局常務委員会、中央委員会主席、副主席を選出する。

党の中央委員会総会は、中央政治局によって召集される。

中央政治局とその常務委員会は、中央委員会総会の閉会期間中、中央委員会の職権を行使する。

主席、副主席および中央政治局常務委員会の指導のもとで、若干の必要な、精鋭化した、能率

的な機構をもうけて、党、政府、軍隊の日常活動を統一的に処理する。

## 第五章 党の地方および軍隊内の組織

第十条 地方では県以上、人民解放軍では連隊以上の党の代表大会は、三年ごとに一回ひらかれる。特殊な事情のもとでは、それを繰り上げもしくは繰り延べてひらくことができる。

地方と軍隊の各級党委員会は、常務委員会および書記、副書記を選出する。

## 第六章 党の基層組織

第十一条 工場・鉱山・企業、人民公社、機関、学校、商店、居住区、人民解放軍の中隊およびその他の基層単位には、革命闘争の必要と党員の人数に応じて、支部、総支部、基層委員会をもうける。

党の支部委員会、総支部委員会は毎年一回改選し、基層委員会は二年に一回改選する。特殊な事情のもとでは、それを繰り上げもしくは繰り延べておこなうことができる。

第十二条 党の基層組織のおもな任務はつぎのとおりである。

(一) 党員と非党員がマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想を真剣に学習し、修正主義を

批判するのを指導すること。

(二) 党員と非党員にたいし、つねに思想路線と政治路線の面での教育をおこない、かれらが階級敵と断固たたかうのを指導すること。

(三) 党の政策を宣伝、実行し、党の決議を貫徹し、党と国家からあたえられた諸任務を完遂すること。

(四) 大衆と密接に結びつき、つねに大衆の意見と要求をきき、積極的な思想闘争をくりひろげて、党生活を生氣はつらつとしたものにする。

(五) 新党員を吸収し、党の規律を執行し、つねに党の組織を整頓し、古いものを吐きだし新しいものを取り入れて、党の隊列の純潔をたもつこと。

中国共産党第十回  
全国代表大会の新聞公報

(1973年8月29日)

## 中国共産党第十回全国代表大会の新聞公報

一九七三年八月二十九日

中国共産党第十回全国代表大会は、八月二十四日から二十八日まで北京で盛大にひらかれた。今回の大会は、団結の大会、勝利の大会、生気はつらつとした大会であった。

わが党の偉大な指導者毛沢東同志が今回の大会を主宰した。

大会の議事日程はつきのとおりであった。一、周恩来同志が中国共産党中央委員会を代表して政治報告をおこなうこと。二、王洪文同志が中国共産党中央委員会を代表して党規約改正についての報告をおこない、大会に『中国共産党規約草案』を提出すること。三、中国共産党第十期中央委員会を選出すること。

八月二十四日、大会は正式に開幕した。

毛主席が主席台に姿をあらわしたとき、満場にあらしのような歓声がわきあがり、代表たちは大きな感激を胸に、しばし鳴りやまぬ熱烈な拍手をおくり、「偉大な指導者毛主席万歳！ 万々歳！」と高らかに叫んだ。毛主席は代表たちに親しく手をふってあいさつした。



大会は百四十八名の代表からなる主席団を選出した。

大会は、毛主席を主席団主席に、周恩来、王洪文、康生、葉劍英、李德生の諸同志を主席団副主席に、張春橋同志を主席団秘書長に全員一致で選出した。

主席団の前列にはまた、劉伯承、江青、朱德、許世友、陳錫聯、李先念、姚文元、董必武、紀登奎、汪東興、華国鋒、吳徳の諸同志が着席した。

中国共産党第十回全国代表大会は、林彪反党集団を粉碎し、党の第九回全国代表大会の路線が偉大な勝利をおさめ、国内外の情勢がひじょうにすばらしいという状況のもとでひらかれた。中国共産党中央委員会と全党の同志は、歴史的意義をもつ今回の大会のために十分な用意をととのえた。広範に民主を發揚し、代表候補者をくり返し検討、協議し、代表候補者所在の地区あるいは単位の党内外の大衆から意見を求めたうえで、さいごに千二百四十九名の代表を選出した。大会の正式開幕に先だち、全代表は大会のすべての文献の草稿と草案を真剣に討議した。全国人民はよろこびにあふれて、いっせいに實際行動で十全大会の開催を迎えた。

大会が正式に開幕したその日、われわれの偉大な社会主義祖国の津々浦々からきた大会代表は、マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの大きな肖像がかかげられているホールを通じて、荘嚴な会場に入った。かれらのなかには、産業労働者の党員代表もおれば、貧農・下層中

農の党員代表もいる。また、祖国の辺境地区からきた、警戒心をたかめて国防前線の守りについでいる人民解放軍の党員代表もおれば、革命的幹部、革命的知識分子とその他の勤労人民の党員代表もいる。労働者、農民、兵士の党員代表は総数の六七パーセントを占めている。婦人の党員代表は二〇パーセント以上を占め、漢民族以外の兄弟諸民族の党員代表も、一定の比率を占めている。解放を待つ祖国の神聖な領土——台湾省の、全国各地在住の党員によって選出された代表は、はじめて党の全国代表大会に参加した。代表たちは、全国の二千八百万党員の委託と各民族の億万人民の願いをたずさえて、自分たちの偉大な指導者毛主席といっしょに、団結、緊張、厳粛、活発に活動をすすめた。

八月二十八日、大会は真剣で、熱烈な討議のすえ、周恩来同志の政治報告と王洪文同志の党規約改正についての報告を全員一致で採択し、『中国共産党規約』を全員一致で採択した。代表たちは、これらいくつかの文献はマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想のみちびきのもとに、国内外のすばらしい情勢を分析し、九全大会の路線にみちびかれて各分野がおさめた偉大な勝利を十分確認し、二つの路線の闘争、とりわけ林彪反党集団粉碎の闘争の基本的經驗を総括し、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命の方向と任務をいちだんと明確にしており、それは全党、全軍、全国人民の戦闘的綱領である、とよろこびをもって語っていた。

大会は、くり返し検討し、討論をおこない、無記名投票の方式によって中国共産党第十期中央委員会を選出した。選挙の結果が発表されたとき、満場にふたたびあらしのような拍手とスローガンを叫ぶ声がとどろいた。

当選した百九十五名の中央委員と百二十四名の中央委員候補は、老年、中年、青年の三結合を具現している。かれらのなかには、党創立の初期、第一次と第二次の国内革命戦争を体験した古くからのプロレタリア革命家もおれば、抗日戦争、解放戦争、抗美援朝戦争で砲火の試練を経た各分野の指導幹部もいる。また、社会主義革命時期の三大革命運動（階級闘争、生産闘争、科学実験）と帝国主義、修正主義、各国反動派に反対する闘争のなかでのすぐれた戦士もおれば、プロレタリア文化大革命らしい新しく入党した青年の同志もいる。老年、中年、青年が一堂に集まって、いっしょに学習し、互いに激励しあつた。代表たちは、第十期中央委員会はわが党が栄え発展をとげており、革命事業の継承者がすでに育つており、マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想の基礎の上にゆるぎなく団結していることを十二分に示している、と感動して語っていた。

大会は、怒りをこめて林彪反党集団の犯罪行為を糾弾した。全代表は、ブルジョア階級の野心家、陰謀家、反革命二面派、裏切り者、売国奴林彪を党から永遠に除名すること、林彪反党集団

の主な成員、国民党反共分子、トロツキスト、裏切り者、特務、修正主義分子陳伯達を党から永遠に除名するとともに、その党内外におけるすべての職務を罷免することについての中国共産党中央委員会の決議を断固擁護した。また、林彪反党集団その他の主な成員にたいする中国共産党中央委員会の処置とその他のあらゆる措置を一致して擁護した。

中国共産党第十回全国代表大会は、全党、全軍、全国人民に、大会の諸文献をまじめに学習し、これを貫徹し、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命を堅持し、「マルクス主義をやるのであって、修正主義をやるてはならない、団結するのであって、分裂してはならない、公明正大であつて、陰謀術策をめぐらしてはならない」という基本原則を堅持し、団結して、いっそう大きな勝利をかちとろうと呼びかけた。

大会はつぎのことを指摘した。当面、われわれはひきつづき林彪批判・整風を第一位におこななければならない。林彪反党集団というこの反面教師を十分に利用して、全党、全軍、全国人民に階級闘争、路線闘争の教育をおこない、マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想を学習し、修正主義を批判し、ブルジョア世界観を批判しなければならぬ。ひきつづき、文化の諸領域をふくむ上部構造における闘争・批判・改革をりっぱにおこない、革命に力をいれて、生産をうながし、仕事をうながし、戦争への備えをうながすことにつとめ、各方面の活動をいっそうりっぱに

おこなわなければならない。十全大会で確定された政治路線と採択された新しい党規約にしたがつて、われわれの党をいっそう強固な、いっそう生氣はつらつとしたものに築きあげ、全国各民族人民を指導し、団結できるすべての力と団結し、プロレタリア階級独裁をさらにうち固めなければならない。

大会はつぎのことを指摘した。当面の国際情勢の特徴は、天下が大いに乱れていることである。このような動乱は、わるいことではなくて、よいことであり、それは各国人民にとって有利で、帝国主義、現代修正主義、各国反動派にとって不利な方向にひきつづき発展している。われわれはかならず、プロレタリア国際主義を堅持し、党の一貫した政策を堅持し、全世界のプロレタリア階級、被抑圧人民、被抑圧民族との団結をつよめ、帝国主義の侵略、転覆、干渉、支配、侮辱をうけているすべての国との団結をつよめ、もつとも広範な統一戦線を結成して、帝国主義と新旧植民地主義、とりわけ米ソ両超大国の覇権主義に反対しなければならない。われわれは全世界のすべての真のマルクス・レーニン主義の政党、組織と団結して、現代修正主義に反対する闘争を最後までおしすすめなければならない。大会は、全国の労働者階級、貧農・下層中農、人民解放軍の指揮員・戦闘員と各民族人民に、かならず、侵略戦争に反撃するそなえを強め、帝国主義がひきおこす世界大戦に警戒し、とりわけ社会帝国主義がおこなう不意の襲撃に警戒し、あ

えて侵犯してくるすべての敵を断固として、徹底的に、きれいに、のこらず消滅するよう呼びかけた。

偉大な、光栄ある、正しい中国共産党万歳！

団結・勝利の党の第十回全国代表大会万歳！

マルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想万歳！

偉大な指導者毛主席万歳！ 万々歳！

中国共産党第十回全国代表大会主席団の名簿

(百四十八名)

主席 毛沢東  
副主席 周恩来 王洪文 康生 葉劍英 李德生  
秘書長 張春橋

(以下の排列は姓の中国簡略文字筆画順による)

劉伯承	江青(女)	朱德	許世友	陳錫聯	李先念
姚文元	董必武	紀登奎	汪東興	華国鋒	吳德
丁盛	馬天水	馬寧	馬金花(女)	于会泳	鄧小平
鄧穎超(女)	王体	王震	王六生	王必成	王永禎
王秀珍(女)	王淮湘	王德山	パスン(巴桑)(女)		尤太忠
毛遠新	韋国清	韋彩猷	文香蘭(女)		
ワリスジャン・トルディ(瓦力斯江・吐爾地)		白如冰		皮定均	玄順姬(女)

任榮	劉子厚	劉興元	劉慶棠	劉建勳	劉春樵
烏蘭夫	孫玉国	江礼銀	朱光亜	朱克家	朱秀峰(女)
朱明倉	華林森	年繼榮	邢燕子(女)	陳雲	陳永貴
陳先瑞	ジャ(夜牙)	杜平	楊勇	楊得志	李大章
李志民	李秀蘭(女)	李素文(女)	李瑞山	張鳳英(女)	張平化
張世忠	張達志	張江霖	張延成	張秀芝(女)	張体学
張恒雲	張宗遜	張洪池	呂玉蘭(女)	呂存姐(女)	吳向必
吳桂賢(女)	時克啓	宋佩璋	余秋里	佟純良	汪家道
余積徳	蘇振華	周興	周一良	周建人	周麗琴(女)
パオシレタイ(宝日勒岱)(女)		冼恒漢	林麗韜(女)	金祖敏	趙紫陽
郝建秀(女)	浩亮	耿飈	徐向前	徐景賢	郭宏杰
郭沫若	倪志福	唐岐山	唐忠富	唐聞生(女)	
ハイカーツ(海呷子)		錢学森	聶榮臻	秦基偉	諸惠芬(女)
梅小丫(女)	尉鳳英(女)	黄林英(女)	盤美英(女)	曹軼欧(女)	曹蓮鳳(女)
康健民	梁錦棠	姬鵬飛	彭冲	韓英	韓先楚

栗裕	解学恭	曾紹山	曾思玉	謝振華	謝靜宜(女)
董明会	雷桂梅(女)	譚啓竜	賽福鼎	蔡暢(女)	蔡協斌
蔡樹梅(女)	潘世告	魯瑞林	樊德玲	魏秉奎	

中国共産党第十期中央委員会の  
委員と委員候補三百十九名の名簿

中央委員百九十五名

毛沢東

(以下の排列は姓の中国簡略文字筆画順による)

丁盛	丁可則	丁国鈺	馬寧	馬天水	于桑
于会泳	于洪亮	王諍	王震	王必成	王宏坤
王秀珍(女)	王国藩	王洪文	王樹声	王首道	王淑珍(女)
王淮湘	王超柱	王稼祥	ティエンパオ(天宝)		
パサン(巴桑)(女)	方毅	鄧小平	鄧穎超(女)	尤太忠	
孔石泉	孔照年	烏蘭夫	韋国清	馮鉞	
イスマイル・アイマツト(司馬義・艾買提)		白如冰	田華貴	田維新	
皮定均	葉劍英	劉偉	劉子厚	劉興元	劉伯承

劉均益	劉賢權	劉建勳	劉盛田	劉湘屏(女)	劉錫昌
江青(女)	江孔銀	江擁輝	江燮元	朱德	朱穆之
許世友	呂玉蘭(女)	安平生	莊則棟	華国鋒	華林森
喬冠華	任思忠	年繼榮	紀登奎	邢燕子(女)	陳雲
陳郁	陳康	陳士渠	陳永貴	陳先瑞	陳奇涵
陳錫聯	陳慕華(女)	杜平	李達	李強	李震
李大章	李井泉	李水清	李任之	李先念	李志民
李順達	李素文(女)	李葆華	李富春	李瑞山	李德生
谷牧	楊勇	楊春甫	楊得志	吳濤	吳德
吳大勝	吳桂賢(女)	蘇靜	蘇振華	張才千	張雲逸
張平化	張達志	張池明	張延成	張体学	張宗遜
張恒雲	張洪池	張樹之	張春橋	張維民	張富貴
張福恒	張鼎丞	張翼翔	汪東興	蕭勁光	岑国榮
宋佩璋	余秋里	周興	周宏宝	周麗琴(女)	周純麟
周建人	周恩來	パオジレタイ(宝日勒岱)(女)	宗希雲	林麗韜(女)	

羅青長	羅錫康	沈恒漢	金祖敏	姚文元	饒興礼
段君毅	祝家耀	胡繼宗	趙紫陽	耿飈	耿起昌
錢之光	錢正英(女)	郭玉峰	郭宏杰	郭沫若	徐向前
徐景賢	夏邦銀	唐岐山	唐忠富	倪志福	聶榮臻
莫顯耀	秦基偉	陶魯筋	姬鵬飛	康生	黃華
黃鎮	尉鳳英(女)	鹿田計	曹里懷	曹軼欧(女)	崔海竜
梁錦棠	韓英	韓先楚	粟裕	董必武	董明会
傅伝作	焦林義	曾紹山	曾思玉	彭紹輝	謝家祥
謝靜宜(女)	魯瑞林	解学恭	蔡暢(女)	蔡嘯	蔡協斌
蔡樹梅(女)	滕代遠	譚啓竜	譚震林	廖承志	賽福鼎
潘世告	樊德玲	魏秉奎			

中央委員候補二百二十四名

卜谷香	チリンワンダン(七林旺丹)	馬明	馬小六	馬立新
馬金花(女)	鄧華	王体	王六生	王光臨

王百得	王志強	王美季(女)	王景升	王德山	文香蘭(女)
葉飛	ヤンツォン(央宗)(女)	石少華	厲日耐	馮占武	
馮品德	申茂功	盧忠陽	白棟材	江華	江渭清
呂和	呂存姐(女)	任榮	タレ(達洛)	孫健	孫玉國
劉西堯	劉光濤	劉春樵	劉振華	向仲華	朱光亞
朱克家	ルジ・トルデイ(肉孜·吐爾迪)	阮泊生	阮泊生	蕭克	吳忠
吳從樹	吳玉德	吳向必	吳金全	楊貴	楊大易
楊坡蘭(女)	楊俊生	楊富珍(女)	陳玉宝	陳代富	陳和堯
陳佳忠	陳佩珍(女)	李化民	李守林	李定山	李祖根
李躍松	張令彬	張懷連	張世忠	張江霖	張英才
張林池	張國權	張泗洲	張積慧	宋双來	宋慶友
宋時輪	陸金龍	汪家道	汪湘君(女)	余積德	鄭三生
林李明	羅春佛(女)	胡煒	胡良才	胡金娣(女)	趙峰
趙興元	趙辛初	姚連蔚	姚依林	徐馳	唐亮
唐克碧(女)	唐聞生(女)	鉄瑛	ジャンピル(賈那布爾)		錢學森

高淑蘭(女)	諸惠芬(女)	郭耀卿	康林	康健民	黃文明
黃成連	黃作珍	黃知真	黃炳秀(女)	黃榮海	隆光前
崔修範	盤美英(女)	彭冲	彭貴和	魯大東	蔣宝娣(女)
謝家塘	謝振華	謝望春(女)	廖志高	裴周玉	黎原
樊孝菊(女)	薛金蓮(女)				

中国共産党  
第十期中央委員会  
第一回総会の新新聞公報

(1973年8月30日)



# 中国共産党第十期中央委員会第一回総会の新聞公報

一九七三年八月三十日

中国共産党第十期中央委員会は、八月三十日、第一回総会をひらいた。会議は中央の機構を選出した。選挙の結果はつぎのとおりである。

中央委員会主席 毛沢東

中央委員会副主席 周恩来 王洪文 康生 葉劍英 李德生

中央政治局委員

(以下の排列は姓の中国簡略文字筆画順による)

毛沢東	王洪文	章国清	葉劍英	劉伯承	江青(女)
朱德	許世友	華国鋒	紀登奎	吳德	汪東興
陳永貴	陳錫聯	李先念	李德生	張春橋	周恩来
姚文元	康生	董必武			

中央政治局委員候補

吳桂賢(女) 蘇振華

中央政治局常務委員會委員

毛沢東 王洪文

周恩來 康生

倪志福

葉劍英

董必武

賽福鼎

朱德

李德生

張春橋

中国共产党第十次全国代表大会文献集

1973年 初版發行

定價 80 円

出版者 外文出版社  
(北京阜成門外百万莊)

發行者 中国国際書店  
(北京 P. O. Box 399)

取扱店 東方書店(東京) 亜東書店(東京)  
中国書店(福岡) 内山書店(東京)  
中華書店(東京)(株) 満江紅(東京)  
朋友書店(京都)

編号: (日)3050-2500

3-J-1313P

00070

